



伝統文化に触れて

副保育長 柿本 美香

1月に江戸太神楽の催し物がありました。ホールからお囃子の音色が聞こえてくると“なにがはじまるのだろう？”とドキドキワクワクした表情の子どもたち。

1・2歳児クラスは、湯飲み茶碗が傘の上でカラカラカラと音をたてて回転する様子を保育者と一緒に拍手をしながらじっと見えています。コマ回しでは剣の先や糸の上を滑る様子を見せて頂いた後、クラスにあるコマをたくさん回す姿もありました。



お獅子は飾ってありましたが怖がる子もなく、退場する際にはそっと触れることもできました。

3・4・5歳児クラスの時には、迫力ある獅子が目の前で舞ってくれました。『賢くなり、悪いものを食べてくれて健康に過ごせる』と考えられているという話を聞いて、頭を噛んでもらいました。『獅子が噛みつくと神がつく』という縁起かつぎの意味もあるそうです。

獅子舞の姿を見た子どもたちは、見たものをすぐに「つくりたい！」と折り紙やブロックでお獅子を作り始めていました。経験がイメージを広げ、遊びにつながっていきました。

2月3日は節分です。季節の節目を意味し翌日は立春となります。昔は『季節の変わり目は体調を崩しやすく悪い気が入りやすい』と考えられていました。そこで『豆=魔(ま)を滅(め)つする』ということに通じる豆をまいて、厄を払うことが始まりとされたそうです。子どもたちは、オニのお面や紙を丸めて豆を作り準備をしています。きっとたくさんの福を呼び込んでくれることでしょう。

これからも日本の伝統行事を大切に、意味や由来についても丁寧に伝えていきたいですね。